



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」

“Through Love, Service” 「愛をもって奉仕しよう」

「原点に立って、未来へステップ」

「ワイズメンとして一歩前進」

「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2016年2月号

NO 474

人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。心を探り、そのはらわたを究めるのは主なるわたし(神)である。それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる。

旧約聖書エレミヤ書 17・9・10

志を共に出来る友と

会長 大野 貞次

今月の強調テーマは「Time of Fast」(断食の時)です。

今、私たちの暮らす日本はあまりにも食べ物を無駄にしてはいないでしょうか？

先日、スーパー、レストラン、コンビニ等から出る賞味期限が切れた商品や、異物が混入した商品の廃棄処分を依頼した食品を、自分たちの利益のために横流しした業者が摘発されました。

何たる事や。貧困で1日の食事に困っている子供たちが国内にいるというのに。また世界では紛争・災害に巻き込まれた子供たちが、食べ物がなく餓死してしまうニュース、それらを見聞きするたびに心が痛みます。

私たちのこの小さな活動が少しでも役に立つなら共に目的を果たしましょう。

さて、わがクラブには高齢化の波が押し寄せています。この波は避けることはできませんね。

健康には体力・知力・エトセトラ、そして余裕が必要。さてさてどうでしょうか。その中のどれかを持っていれば頑張れるかなど。しかし、アチャコチャと痛みだし、活動に支障をきたす兆しあり。

大丈夫かな、そんな後向きな考えにならず、この活動に共感できる後輩を見出す努力をし、共に志を遂げる事のできる仲間を少しでも増やす事が出来るよう祈り、先に進みたいと思うものです。これからの半期の活動はまだまだ多くのスケジュールがあります。歩みを止めることは出来ないのですね。転んだりしないように、体を労わりこの厳しい冬を乗り越え花の咲く春を迎えましょう。

心待ち 花咲く枝に

ふくらみが

WHO 2月例会[JAL・M] 発表即、満員締め切り

2月のWHOウォーキングは、人気のJALミュージアム見学としましたが、発表後2日間で、定員の49人に達しました。

当日の2月23日(火)は、羽田モノレールの新整備場駅に集合、JALミュージアム、整備工場を見学し、国際線ターミナルビルの「江戸小路」「はねだ日本橋」「展望デッキ」で楽しみます。

WHO 200回に向けて

WHOは、順調にいけば、今年7月に200回となります。

3月は、東郷寺をはじめとする府中のサクラ、4月は川崎・長尾の農の風景、5月は都内、6月は大宮盆栽村と氷川神社を予定しています。

記念すべき7月は、少々遠出して「横須賀」の案もありますが、例年酷暑に悩まされるので、決定には至っていません。

クラブ役員

会長 大野 貞次
副会長 高嶋美知子
書記 篠原文恵
会計 石井 元子
担当主事 小畑 貴裕

1月の記録		ニコニコ	0円
在籍者数 17人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
例会出席者数 10人	コメント 0人	ファンド残高	341,727円
メーカーシップ 2人	ビジター 4人	ホテル校ファンド	9,000円
出席率 75%	ゲスト 5人	ホテル校残高	74,578円
前月修正 -	出席者合計 20人	WHO参加者	41人

2月例会のご案内

今月の強調テーマ： TOF（断食の時）

2月例会の会食代は、途上国で民生向上のために苦闘しているYMCAに世界YMCAを通して贈られます。

今月は、東京家庭学校校長松田雄年先生をお招きして、最近の養護学校の状況、それを取り巻く社会について、併せて東京家庭学校の成り立ちをお伺いします。

日時：2月18日（木） 18時45分～21時

会場：あんさんぶる荻窪4F 第2教室

（杉並区荻窪 5-15-13 TEL03-3398-3191）

会費：500円（どなたも）

担当：A班（神谷、河原崎、高嶋、竹内）

HAPPY BIRTHDAY

2日 高嶋美知子

受付 河原崎和美
司会 高嶋美知子

開会点鐘 大野 会長
ワイズソング 一 同
聖書朗読・感謝 神谷 幸男
挨拶と紹介 大野 会長
会食と歓談 一 同

卓話 「児童養護施設の現状と将来像～
東京家庭学校の歴史と理念」
東京家庭学校校長 松田雄年さん

ワイズ報告 大野会長他
YMCA報告 小畑 主事
ハッピーバースデー
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 大野 会長

—1月事務会報告—

日時：1月28日（木）

19：00～21：00

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：大野、神谷、木原、篠原、
高嶋、吉田

<報告事項>

- ①1月のデータを確認した。
- ②1月の経常会計報告は担当者が病欠のため次月に行う。
- ③あずさ部第2回評議会
日時：2月13日（土）
場所：長野県松本市県3-1-1
あがたの森文化会館
登録料：2,500円
受付：11：00～11：30
開会式・評議会：11：30～
12：45
懇親会：13：00～15：00
出席予定者：大野、神谷、高嶋、
篠原
- ④新年会の会長会において、来年の同会のホストクラブは東京たんぼぼクラブに決定した。
- ⑤会員の近況が報告された。

<協議事項・例会関係>

▲3月合同例会（東京世田谷C）

日時：3月17日（木）

18：45～21：00

会場：山手YMCAセンター

卓話：昭和大学名誉教授・岡松
孝男先生（小児外科）
「カンボジアに小児外科
を設立するまで」

担当：C班 山田(利)、小畑、
小山、鳥越、本川

▲4月例会

日時：4月21日（木）

18：45～21：00

会場：未定

卓話：未定

担当：A班 吉田・木原・堀内・
石井・篠原・山田(紀)

<協議事項・例会以外>

- ①次期クラブ役員候補選出の件：会長（高嶋美知子）、副会長・会計・書記は、2月に事務会で決定する。
- ②ブリテン発送先リスト：
ワイズコムが普及して、メールで閲覧できるメンバーが増えたので、送付先の見直しをした。
- ③ブリテン発送担当者：
担当者が体調不良のため、代替の担当を本川悦子さんに依頼した。

卓話者紹介

松田 雄年(まつだ たけとし) さん

1959年高知県四万十町（旧窪川町）に生まれる。

1983年淑徳大学を卒業し、自閉症児の生活指導のため渡米し、1年間従事する。帰国後フリーターを経て、1986年東京家庭学校に入職し、2003年校長（施設長）に就任し、現在に至る。

大正大学、道灌山学園保育福祉専門学校非常勤講師、児童部会研修部長等。

③40周年記念祝会の準備委員会：

方向性がほぼ定まったので、クラブメンバー全員で実行段階に入る。次回事務会で委員会を改組する。

（書記・篠原文恵）





ヨット競技の写真をバックに楽しさを語る竹脇さん(左)と飯島さん



初詣をが終わっても賑わう川崎大師の総門前

－ 1月例会報告－ ブラインドセーリングを語る

1月21日、今年初めての例会にはゲスト、ビジターが9人も参加して下さいました。雪で転倒したメンバーや、急な入院など、お迎えするはずの当方が欠席者続出で、慌てて会場づくりを始め、皆様の応援があつて、なんとか開会に漕ぎ付くことができました。

初めて知る「ブラインドセーリング」という言葉。視覚障害者2人が舵とメインセール（大きい帆）を担当、晴眼者2人が声で指示を出すチームを組んでヨットを走らせる競技と聞きました。

一つ間違えば、一瞬で海に投げ出される恐怖を克服して、対等の立場で真の共生を楽しむスポーツだそうです。この競技を知るまでは、船の操縦はおろか、初めて船に乗る初心者が、ボランティアの助けを得て、光を失う絶望から希望へのきっかけになると、ニュージーランド、英国ウェイマスやマイアミで開かれた国際選手権大会での活躍や、国内でのレースの映像を披露されました。

学生時代からヨットに親しんでいた日本視覚障害者セーリング協会元会長の竹脇義果さん（お父上はあの名アナウンサー・竹脇昌作さん）は、この協会を立ち上げるまでの話や、聖書の詩編の言葉を引いて自身の思いも語られました。

ヨットの入手や、マリナーでの係留契約など、初めてづくしの経験を楽しげに語る元副理事長の飯島賢司さんは吉田明弘さんの中学の同級生。ヨットマンのビジター・吉田司さんなどからの質問で和やかな会となりました。

大野会長自作の絵がバースデープレゼントで贈られ、例会は無事に終わりました。

（篠原文恵）

出席者：大野、小畑、神谷、小山、篠原、高嶋、鳥越、本川、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>吉田 司さん（東京むかで）、長谷川さん（東京八王子）、中澤さん・藤江さん（東京たんぼぼ）、<ゲスト>飯島賢司さん・竹脇善果さん（卓話）、片平進一さん、大橋美恵子さん、半田恵章さん、<メーキャップ>石井・木原

1月のWHO 例会 東海道・川崎宿と川崎大師

1月例会は、WHO としては遠出の東海道・川崎宿と川崎大師。

1月23日は、雪が降ってもおかしくない寒さでしたが、41人が参加。六丁吸までバスで移動してスタート。ここは、故郷に旅立つ芭蕉が門人たちと別れた宿場町のはずれです。「六郷の渡し」まで、旧東海道を歩きました。

道筋以外、往時のものは何一つ残っていません。京浜工業地帯であったために、町は徹底的に太平

洋戦争で破壊され、戦後は経済成長にひた走り、宿場町だった昔を忘れていた時間が長かったので。モノだけでなく、人も変わってしまった感じがあります。

市が力を入れて説明板を各所に設置していますが、町の人思い出や昔話は、好景気に沸いた時代のものという印象です。むしろ宿場のはずれの人影のない六郷の渡しの方が、何かを語っているかのように思えました。

宿場町の中ごろに、砂子の里という広重の東海道五十三次の浮世絵を展示している小さな施設と、市が力を入れている、かわさき交流館があり、昔日の宿場をしのばせてくれました。

2手に分かれて見学しましたが、元埼玉クラブの関喜一郎さんが自発的に下見をしてくれていたのが助かりました。

最後は、厄除けで知られる川崎大師。初詣の人出が話題になりますが、まだ参道のお土産物屋が賑わっていました。とりあえず境内に入り、自由行動としました。

その、豪壯の堂宇が1960年に再建したそうです。江戸時代に参拝者が爆発的に増えたそうで、明治になって、参拝者のために敷設した電車が、東日本最初の電車だったとは、驚きです。

ワイズ関係の参加は、吉田（東京西）、中澤・藤江さん（東京たんぼぼ）でした。（吉田明弘）



桜美林大学ファイブステップの演奏 左から加藤詩織さん、笠原陽子さん、松岡邦忠さん（ピアノの陰）



東日本区大会アピール・ホストクラブの長野クラブ会長森本俊子さん

在京クラブ会長会報告

在京ワイズ合同新年会に先立ち、午前 10 時から在京クラブ会長会が、19 クラブの会長担当主事、来賓、新しく出来るクラブ関係の参加者を迎えて行われた。

第 1 部

* 会長幹事報告及び会計報告がなされた。

* 東京 YMCA 会員部の報告では会員増強の依頼がありました。

* 在日本韓国 YMCA の活動状況の報告があった。

「協議」

次年度の在京ワイズ新年会のホストクラブは東京たんぽぽクラブに決まる。次回の会長会は 5 月 28 日とした。この会長会のあり方について意見が出され、協議の上検討事項とした、

第 2 部

各クラブの活動状況が報告され、当クラブは創設 40 周年記念例会の予告をし、参加の呼び掛けをさせていただいた。

(大野貞次)

在京ワイズ合同新年会

恒例の在京ワイズ合同新年会は、1 月 9 日（土）12:30～15:30、多摩市にある桜美林大学多摩アカデミーヒルズにて開催されました。在京 16 クラブとビジター、ゲストで総勢 130 人が集まり、新年のご挨拶と交流を楽しみました。

第 1 部は礼拝、桜美林大学チャ

プレン薛 恩峰牧師（元東京セントラルクラブ）による「新しい年、自分のタレントを生かして生きよう」と題して奨励をいただき、また東日本大震災復興支援のために献金を奉げました。

第 2 部は会場を移して懇親会。東京 YMCA 総主事、東日本区理事、日本 YMCA 同盟総主事から祝辞をいただいた後、次期東日本区理事の発声で楽しい食事。旧交を温め合う人、何やら打合せをする人でわいわいガヤガヤ。舌つづみも一段落したところで桜美林大学ファイブステップの皆さんによる演奏を多くの方々を楽しみました。

参加クラブ紹介の後はアピールタイム。周年記念集会の PR、チャリティコンサートへのお誘い、東日本区大会のアピールは、横断幕を掲げてのアピール。長野クラブのホストによる長野市での開催。多くのワイズ仲間が集まって、ひとつとなって明日のワイズ形成を熱く語り、ワイズ運動を盛り上げたいものです。勿論、東京西クラブの 40 周年記念祝会もアピールしました。

皆で YMCA の歌を唱和し実行委員長の謝辞、ホストクラブ会長の閉会挨拶と点鐘で定刻お開きとなりました。

東京西クラブの参加者は、大野、石井、小畑、神谷、篠原、高嶋、本川、吉田、神谷 M でした。

(神谷幸男)

ペンタゴン DBC と震災支援

ワイズメンズクラブはその活動の拡大化、強力化の手段の一つとして、他のクラブと兄弟関係を結び、特に交流関係を密にすることによってその効果を期待して兄弟クラブを締結することを奨励している。

東京西クラブは国外のクラブとの兄弟クラブ（IBC）として台北セントラルクラブ（台湾）と大邱セントラルクラブ（韓国）と締結している。

国内の兄弟クラブとして京都ウェストクラブ、大阪西クラブ、神戸西クラブ、熊本にしクラブと、2009 年 6 月熊本市で行われた西日本区大会席上で兄弟クラブを締結した。5 クラブからなるので、ペンタゴン DBC と称している。蛇足ながらペンタゴン DBC の運営活動費は各クラブの拠出金で賄われる。

設立当初の活動は、東西区大会で皆が顔を合わせる時を利用して会食会を行うなど、旧交を温める程度であったが、その後 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災クラブ、被災クラブメンバーを支援しようということになった。

このペンタゴン DBC の震災に対する復興支援については、次号に述べる。 (神谷幸男)

☆☆ インタビュー ☆☆ 前原末子さんに聴く

* * *

前原末子さん（御殿場）は、今年 30 周年を迎えるクラブの記念事業実行委員長です。（吉田明弘）



—前原さんとは、昨年 11 月の伊東クラブ 40 周年のパーティーが初対面でしたね。その席で今回のインタビューをお願いしました。突然で失礼しました。

「びっくりしました。いったんは、お断りしたのですが、まあ、お役に立つのならと、お引き受けしてしまいました。よろしくお願ひします」

—いきなりですが、どんなお仕事をなさっているのですか。

「主人が建築や設備全般の工事、建物や設備のメンテナンス管理や洗浄、水処理をする会社を 40 年前に起業しましたので、創業以来、そこで経理担当をやっています」

—クラブへの入会はいつですか。

「2009 年 6 月に入会しました」
—十勝で区大会があった時ですね。大会に参加しましたか。

「まだ新人でとてもそこまで考えられませんでした」

—入会はどんな動機でしたか。

「お亡くなりになったメンバーの木村朗さんに誘っていただきました。木村さんとは、仕事の関係で知り合いです。ワイズメンズクラブについては、名前だけは知っていましたので、あまり深く考えないで、入会させていただきました。辞めることは、いつでもできると思っていたので、断ることは考えませんでした。ただ、『大

きな役さえなければ』と言ったことを覚えています。今、考えると、入会した動機は、木村さんのお人柄が大きかったのかもしれない」

—クラブにすぐ馴染めましたか」

「最初は何かよく分かりませんでした。会員の方々が、皆良い人達なので、すぐになじめました。入会した翌年には副会計をすることになりました」

—御殿場クラブは、女性メンバーが多いですね。

「私が入会した頃は、クラブの会員数は、15、16 人で、女性は 7 人だったと思います。今は女性会員が 17 人います。同年代の女性が集まると楽しいですから、例会も楽しみのひとつです。自分が誘って入会した人との絆も深くなったようで、嬉しいことです」

—女性メンバーが多いことには理由があるのですか。

「御殿場クラブは、元々、富士山部の中では珍しく、女性メンバーが多かったのです。でも私が最初に知った時は、男の人達だけが目立っていて、男性の会だと思っておりました。木村さんに誘われた時も、女性でもいいんですかと質問をしたくらいです。その時、『女性大歓迎』と言われました」

—前原さんが誘って、入会された方も多いのですか。

「その後、会計をさせて頂いた時に、会計の仕事を通して、クラブ全体が見えるようになって、これは、会員を増やさないかぎり、行き詰ってしまうかとも思い、友達に声をかけるようになりました。友人達の反応も、『うちは仏教だよ』とか、『役はやりません』とかでした。でも心の中には、皆、ボランティアをやりたいという意識があったのでしょうか」

—2005 年 2 月に、東日本区と西日本区の交流会を御殿場東山荘で行いました。あいにく雪が降ったのですが、御殿場クラブの女性メンバーが、朝から長靴を履いて

駐車場で車の誘導をされているのに感激しました。御殿場の女性は働き者なのですか。

「どこの女性も同じだと思えますが、御殿場の女性も根性は男性よりもあるかもしれません。ふだんでも、あまり愚痴をこぼす人がいません」

—前原さんは、御殿場のご出身ですか。

「生まれは山梨です。就職で上京して、横浜の磯子区に住みました。5 年勤めて結婚して、戸塚区で暮らしていましたが、主人の父の仕事の関係で御殿場に来ました。今や御殿場にどっぷりと浸かっています」

—個人的に、時間のある時には何をされていますか。

「ゴルフが好きなので、月に 1 回はやりたいですね。20 年やっていますがスコアの方は、一向に結果がでません。でも、1 日楽しくやれば良いと思っています」

—クラブ例会の会場は、YMCA の東山荘ですね。

「ええ。使用料は安いし、何人の例会でも対応してくれますし、YMCA の話もしてもらえます。東山荘があるので大変助かっています」

—御殿場クラブも 30 周年を迎えますね。

「先輩達が築き上げてきたことを守りながら、今はメンバーの 3 分の 2 が女性ですので、女性の目線も生かして、これから先、歩んでいければと思っています。」

—記念祝会は、5 月 29 日ですね。

「東山荘の新装工事が今のところ間に合いそうにないのが、本当に残念ですが、ぜひ、全国のワイズメン、ワイズメンにお集まりいただければと願っています。東山荘は、大正 4 年に開設されましたが、今、朝ドラで話題の広岡浅子が献堂式で祝辞を述べたというゆかりの場所です。」

—ありがとうございます。ぜひ参加させていただきます。

私の身体に癌が発見された最初は25年前(平成2年秋)のことであった。職場の人間ドックで胃癌が発見され、胃の2/3の切除手術を余儀なくされた。執刀医から、患部ポリープは数mmの大きさで、医者でも10人に1人が見つけられるかどうかで、幸運であったと告げられた。

その後、毎年胃カメラによる検診を受診し、担当医からは5年間再発が無ければ転移は無く、その後に癌が発見された場合は、全く新しい癌細胞によるものと教えられた。その後も同病院で内視鏡による検査を受診していたが、70歳時に「今年は胃ではなく、下部の大腸・直腸検査にしましょう」との指示に従い、腸検査を受診。その際、良性ポリープが発見され内視鏡による除去を実施。翌年も

前年のポリープ除去後を診るため、腸部検査を実施し、問題がなかった。

最初の腸部検査2年後に、他の病院にて心筋梗塞の手術を実施し、3年後にその延長上で食道癌が発見され、大手術に至った。

胃カメラ検査を毎年していればもっと早期に発見されていたかも知れ、たまたま腸検査を優先させたために…の念もあるが、当時、検査を2種類する必要性を感じてはいなかった。

癌検診のインターバルをどうするかは、身体の一部、病歴等で判断する。消化器系(咽頭、喉頭、食道、胃、十二指腸、大腸、直腸)は飲食物により外部から発癌物質が侵入する可能性があり、相互に転移の危険性をはらんでいる。従って、消化器系の癌検診は短ければ短いほど良い。独立臓器(すい臓、腎臓等)の検診は数年に1度でも良い場合もある。悪性腫瘍であっても、発達に時間のかかる臓器もあり、医師とよく相談する必要がある。術後に知人と癌についての話題になり、その知人は内視鏡検査は上からと下から両方、毎年夫婦で実施しているとのこと。毎年胃カメラ検査を実施しているから…と安心して自分の情けなかった。

消化器系の癌検診は頻繁に実施することに越したことは無い。その他の臓器については、病歴、喫煙歴、飲酒歴等を勘案して医師とよく相談の上、インターバルを決めることが望ましい。そのためには安心して相談できるホームドクターを身近に作っておく必要がある。

あることを思い知らされた。このツアーは、当初の予定では18日の早朝に出発する1泊2日の予定であったが、18日の出発は大雪のため中止やむなきに至り、19日の早朝からの出発、日帰りとなってしまった。予定の訪問先をカットせざるを得なかったのは残念だが、まずは有意義なツアーであった。

原発事故の後遺症

神谷幸男

1月19日、2台の車に分乗して日帰りで福島県浜通りの日本キリスト教団常磐教会、その付属白水のぞみ保育園、磐城教会、その付属清風幼稚園を東京教区北支区の有志8名で訪問し、建て直された教会堂を見学し、また震災5年後の放射線被害の様子を見聞きしてきた。

両地区の地上1mの放射線量は東京近辺と同じで高くなく、問題視されることはないが、地表の土砂は特に雨樋下の雨水が浸み込んだ周辺の土砂は略3 μ Sv/hとかなり高いとのこと。また、土砂や農作物の放射線量を計測する民間測定所を見学した。

ここは放射線量を気にする地元の住民の求めに応えるためにあるのだが、その計測対象物、計測結果は秘密が課されており、我々も知ることができなかった。なお、関東一円(東京も含まれる)の山林でもこの程度の放射線量がある

とのことであるから、この地域で生産される農産物はそこそこの放射線量があると考えてよい。

しかし行政は放射線量を公表していないし、住民もまた地元の農産物の販売上の安全性に響くことであるので公表したがるらないとのこと、何とも悲しい現実があることを肌で感じ取った。

我々は、通過することは許可されているが、停車すること、窓ガラスを開けることが禁じられている浪江町近辺から楡葉町近辺の国道6号線を通じた。国道から間道に入る入口にはバリケードが設置されており、要所要所に警察官が監視しているさまを目の当たりにし、この状態がいつまで続くのか全く不透明である中で、この地域から避難している住民の難儀を思わざるを得なかった。

どんなに厳重に管理しても、管理しきれない人間の手から漏れた「核」とはいかにやっかいな代物で

あることを思い知らされた。

あることを思い知らされた。このツアーは、当初の予定では18日の早朝に出発する1泊2日の予定であったが、18日の出発は大雪のため中止やむなきに至り、19日の早朝からの出発、日帰りとなってしまった。予定の訪問先をカットせざるを得なかったのは残念だが、まずは有意義なツアーであった。

編集後記

原稿を寄せていただいた方々に感謝します。巻頭言にはその文末に俳句が一句添えられています。東京西クラブの内部から滲み出る香りが感じられます。

「埋もれ木の記」シリーズは木原さんの闘病体験記ですが、これを書かれたことに頭が下がります。誰にでも無関係ではありえない事実を知り我が身の健康管理に生かしたいですね。

(S.K)